



▼水俣病による病気の苦しみと公害訴訟で味わった辛さを語る緒方さん



幼少のころに、家族や親戚とともに水俣病の被害に遭った緒方さんは、「今までにどれほど経験したことがない病気や差別と戦わなければならぬ暮らしは辛いものでした。水俣病について、広く知ってもらうことに対する使命と役割の重要性を感じて、語り部として活動しています」と、病気による苦しみや周囲の人たちから受けた差別への憤り、公害訴訟で味わった辛さなどについて語りました。

水俣病の苦しみを学ぶ

平成22年度甲佐町人権教育講演会

3月5日（土）町生涯学習センターで、平成22年度甲佐町人権教育講演会が開催されました。同講演会は、すべての住民が心豊かに暮らすために、お互いの人権を尊重し合い、差別のない明るい社会の実現を目指すことを目的に、甲佐町人権教育推進協議会（溜渕誠也会長）が主催。町民や社会教育関係団体、企業関係など、約160人が参加しました。

講師に、水俣病資料館語り部の会副会長の緒方正実さんを招き、「正直に生きる〜私が水俣病から学んだこと〜」と題して講演を開催しました。

高齢者の交通事故防止を

甲佐町安全・安心まちづくり推進協議会

2月25日（金）安津橋健康広場「グリーンパル甲佐」で、甲佐町安全安心まちづくり推進協議会（菊池隆昭会長）と御船警察署（一ノ瀬範秋署長）が合同で、高齢者の交通安全キャンペーンを開催しました。

より多くの高齢者が集う場所として同広場を訪れ、グラウンド・ゴルフを楽しんでいた約170人を対象として、高齢者の交通事故防止を呼び掛け。本町の交通情勢や高齢者の事故の例などを解説し、反射材付きのたすきや交通安全グッズを全員に配布して活用をお願いしました。



▲交通安全グッズを配布して、交通事故防止を呼び掛け



▲高齢者にパトロールへのお礼を述べる児童

登下校時の付き添いに感謝

乙女小で「ふれあい給食」を実施

3月9日（水）乙女小学校（河原邦博校長140人）で、乙女地区で登下校時に児童の見守り活動に取り組む高齢者を招いて、児童とともに給食を通して交流する「ふれあい給食」が開催されました。

同地区では、平成17年から高齢者などを中心に、地域の児童たちと一緒に付き添って登下校して見守り活動を展開する防犯組織「安全パトロール隊」を自主的に結成。隊員は約50人で、地域ごとに交代制などで児童の安全を守っています。

「ふれあい給食」では、日ごろの活動への感謝を込めて招待し、隊員約30人が参加。児童たちが隊員たちに、パトロールへの感謝の言葉を述べた後、楽しく語り合いながら給食を味わいました。

春の訪れを告げるにぎわい

第343回甲佐初市

3月9日(水)・10日(木) 岩下・緑町の市街地で、第343回甲佐初市が開催されました。

春の伝統の祭りは、甲佐町商工会(中村幸男会長)が主催。会場には、苗木や花苗、庭木などを扱う露天商が並んで大売出し。商店街の特売や、「こども相撲大会」などのイベントも開催。甲佐初市の名物「五郎飴」の店先は、子どもから高齢者まで多くの人でにぎわいました。

花苗などを購入した60代の女性は、「初市が開催されると、甲佐にも春が来たと毎年実感します」と話しました。



▲市街地に並んだ初市の植木市を見て回る見物客たち



▲地域住民と納豆づくりに挑戦する白旗小児童

昔ながらの納豆づくりを体験

白旗小3年生と辺場区の住民で挑戦

2月23日(水) 白旗小3年生(金子正誓教諭14人)と辺場区(田端優区長50世帯)の地域住民9人で、納豆づくり体験をしました。

この体験は、総合的な学習の一環として、古い農具や民具を通して、昔の人々の暮らしについて学ぶことを目的に実施。納豆づくりに使う大豆は、地域住民で休耕田に植えて、昨秋に児童たちと一緒に収穫したものを利用しました。

納豆づくりでは、金柿洋子さんの指導で、児童たちは「わらず」として作成。煮た大豆の中に入れて学校に持ち帰り、2日間寝かせて完成。学校でご飯と一緒に試食しました。

児童たちは「納豆の独特のにおいがしたけれど、食べてみるとおいしかったです」と感想を述べました。

児童たちを本の物語の世界へ

乙女小読み聞かせボランティア「ひまわりの会」



▲乙女小の各学年の教室で、児童たちへの本の読み聞かせボランティア活動に取り組む「ひまわりの会」の皆さん

乙女小学校(河原邦博校長140人)では、毎月第4火曜日の始業時間前に、乙女小読み聞かせボランティア「ひまわりの会」による本の読み聞かせが行われています。

同会は約8年前から始まり、同小児童・卒業生の保護者や地域の高齢者など約10人で活動。児童たちの心豊かな成長を図るために、絵本や物語の読み聞かせに取り組んでいます。

3月15日(火)は、平成22年度最後の読み聞かせが行われ、終了後にボランティアの皆さんに対して、同小から日ごろの活動に対する感謝状が贈呈され、児童から手作りのしおりが記念品として手渡されました。

3年前から活動に参加している久米次男さん(麻生原区・表紙写真)は、「子どもたちが物語に夢中になっているときに見せる生き生きとした表情を見ると、読み聞かせをしていて良かったと思います」と感想。西村和代さん(和田内区・写真)は「地域に何か貢献したいという思いから、読み聞かせボランティアを始めました。絵本の世界と一体となっている子どもたちの顔を見ると、うれしく思います」と話しました。